

2021年8月22日～8月28日 各家庭でのディポーション用テキスト

## ■権力を行使する訓練（4/4）

おそらくここに、真のやさしさについての最大のテストがあるのではないだろうか。すなわち、自分が態度や行動において過ちを犯しやすいことを認め、それを犯しそうになるとき、忠実な神がご自身のしもべのうちのだれかを遣わして私たちの過ちを抑制しようとなさる、ということを感じる敏感な心を持っているかどうか、ということである。私たちが神の子であることについて、私たちの命は「キリストとともに、神のうちに隠されてある」と教えられている（コロサイ 3：3）。私たちの社会関係については、「あなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです」と教えられている（ヨハネ 13：35）。私たちはまた、「悪者の喜びは短（い）」こと（ヨブ 20：5）、神はご自身がむち打たれる者に対して「後になると」実を結ばせてくださること（ヘブル 12：11）を知っている。私たちが勝利を得、報酬を与えられるとき、短気のゆえに後悔することが少しもないとは、何とすばらしいことであろう。

私たちは、他人の忠告に耳を傾ける穏やかな心を持っているだろうか。私たち自身の行動についての勧告や非難、私たちの精神が正しくないのではないか、私たちがささいなことにおいて神の導きに従っていないのではないかというような示唆に快く耳を貸すほどの穏やかな心を持っているだろうか。ダビデはこう言うことができた。「正しい者に私を打たせてください。それは私にとっていつくしみとなります。彼に私を責めさせてください。それは私にとっていともよき油となります。それが私のこうべを砕くことはありません」（詩篇 14：15 英訳）。

身近な人々に対してやさしい心を持つこと、私たちが不当に虐待する者や私たちの敵である者に対してやさしくすること、神の御霊に対して（御霊がどのように私たちに語りかけられるにしても）温順な態度を失わないこと—これが権力を行使す

る訓練である。人格の高潔さと心のやさしさこそ、他の人々を指導しようとする者にとって欠くことのできない前提条件である。ダビデはその「最後のことば」の中でこの真理を述べている。「義をもって人を治める者、神を恐れて治める者は、太陽の上る朝の光、雲一つない朝の光のようだ。雨の後に、地の若草を照らすようだ」（Ⅱサムエル 23：3、4）。

私たちは再び、ダビデにもたらされたどのような成功もすべて「あなたの謙遜は、私を大きくされます」というダビデのことばを思い起こす。彼が示したやさしさも、彼の生まれつきの人格や能力によるのではなく神によるのであり、彼のうちに住まれる神の御霊の実が慈愛というかたちをとってあらわれたのである。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切……」（ガラテヤ 5：22）。

これは内住の救い主のやさしさであり、親切なあわれみ深いイエスが恵みの御霊によって他の人々に示されたものにほかならない。身内の者に対するやさしさ、敵に対するやさしさ、とりわけ神に対するやさしさ、このやさしさが人を大いなる者とするのである。

私の愛するものは静かなもの  
柔らかに降る雪  
空飛ぶ鳥から落ちる柔らかな羽毛  
それは少しも音をたてない  
バラから落ちる一枚の花びらが  
そっと地を求める  
人の愛も同じように  
ほんとうに美しいものは  
音もたてないでそっと注がれる

【V・レイモンド・エドマン 人生の訓練 第二十八章「権力を行使する訓練」より】  
※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。